

2026年4月20日

扇島 LNG 基地の地下式 LNG タンクがギネス世界記録™に認定

東京ガス株式会社

東京ガス株式会社（社長：笹山 晋一、以下「東京ガス」）は、扇島 LNG 基地（神奈川県横浜市）の 4 号地下式 LNG タンク（容量 25 万 m³、以下「本タンク」）について、2026 年 3 月 26 日に「Largest in-ground LNG storage tank（最大の LNG 地下タンク）」としてギネス世界記録™の認定（以下「本認定」）を取得しました。本認定は清水建設株式会社、株式会社 IHI プラントとの連名での取得です。



4 月 20 日に実施された認定証授与式の様子

本タンクは大阪城の天守閣がすっぽり収まるほどの巨大な地下構造物として、一般家庭約 36 万件の 1 年分の都市ガス使用量に相当する容量を備えています。

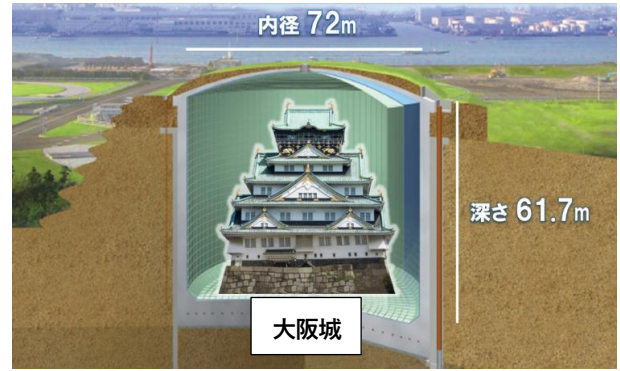
東京ガスは、1969 年にアジアで初めて LNG を導入して以来、世界に先駆けて LNG 技術の高度化に挑戦してきました。1970 年には日本で初めて地下式 LNG タンク（根岸 LNG 基地、容量 1 万 m³）を建設し、以降都市近接型エネルギーインフラに求められる安全性・信頼性の向上を目指して、半世紀以上にわたり地下式タンクの大型化・高度化を着実に進めてきました。本タンクはこれらの技術開発と知見の蓄積を反映したものです。

地下式タンクは、地震時の安定性に優れるとともに、液面を常に地表面以下に保てる構造であることから、大都市にエネルギーを安定的に供給するための重要な技術として発展してきました。

扇島 LNG 基地では、屋根まで地中化する「完全埋設」という設計思想をさらに発展させ、覆土（盛土）と緑化による景観・環境調和、そして敷地の有効利用を実現しました。これらは東京ガスが積み重ねてきた技術や知見を活かした、都市部で安全性・景観性・経済性を同時に満たすための最新の設計・施工上の工夫となります。



扇島 LNG 基地全景 (点線枠が世界最大地下式 LNG タンク)



地下式 LNG タンクの大きさイメージ

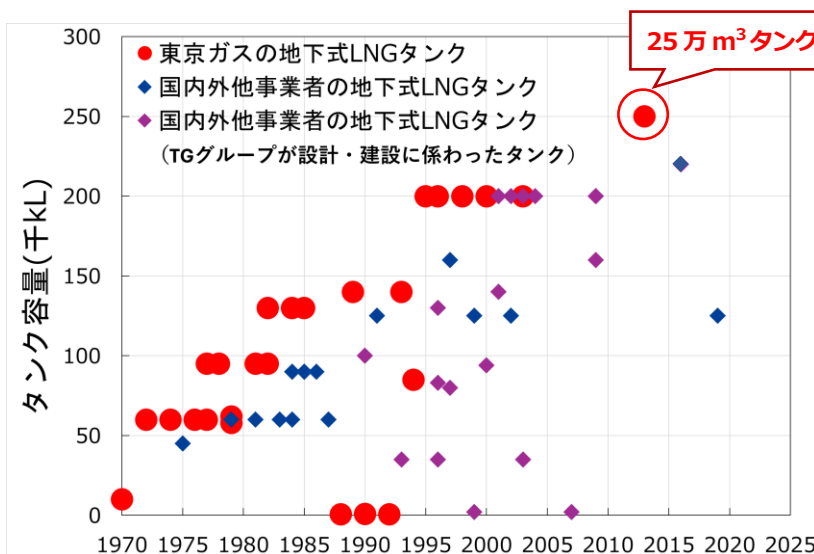
東京ガスは、グループ経営ビジョン「Compass2030」で「LNG バリューチェーンの変革」を掲げています。今後もこれまで培った技術や知見を活用しながら、エネルギーの安全かつ安定的な供給に努めていきます。

東京ガスグループは、創立 140 周年を迎えました。東京を越え、ガスを越え、未来を先取りする企業として挑戦を進めていきます。

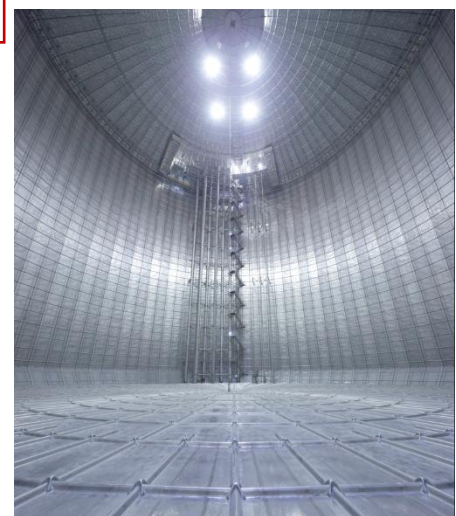
<参考>

■本タンクの主な仕様

貯蔵容量	250,000 m ³
貯蔵液	・液化天然ガス (LNG)
	・設計温度：-162°C
	・設計圧力：23.5 kPa
主要寸法	・液密度：475 kg/m ³
	・貯槽内径：72,000 mm (メンブレン内径)
	・最高液深：61,700 mm



地下式 LNG タンク大型化の変遷



タンク内景 (メンブレン)

以上